

国際交流フェアで異文化を楽しむ



風船のパーツを組み立ててハロウィンバルーンを製作



世界の食文化を堪能



ステージで各国の料理を紹介

異文化に触れ合い、姉妹都市への理解を深めてもらおうと、つがる市姉妹都市協会（野呂充志会長）が10月27日、松の館で国際交流フェアを開催し、多くの市民らで賑わいました。

世界各国のグルメが味わえるワールドフードコーナーには、県内の外国語指導助手や留学生が作った中国の葱油餅（ツォンヨーピン）やタイのグリーンカレーなど5カ国の料理が並び、人気を集めていました。また、世界のミネラルウォーターの利き水ゲームや世界各国のお土産が当たるビンゴ大会、ハロウィンバルーン作りなども行われ、参加した市民らは異文化を楽しんでいました。

本物の“しゃこちゃん”を訪ねて 森田小児童が国立博物館を見学



東京国立博物館で遮光器土偶をバックに記念撮影

森田小学校（藤本敦子校長）6年生40人が修学旅行で10月3日、東京国立博物館を訪れ、亀ヶ岡遺跡から出土した本物の遮光器土偶を見学してきました。

本物の「しゃこちゃん」と出会った児童の声を紹介します。



重要文化財 遮光器土偶
東京国立博物館蔵 同博物館平成館にて通年展示

今 悠人 君 (写真右から2人目)

初めて見た遮光器土偶は思ったよりきれいで小さかったです。体に渦巻の模様や首飾りのようなものもあり、おしゃれだと思いました。色と傷からどれだけ古いかが伝わってきます。昔の技術でこれだけのものを作っていてすごいと思いました。土偶を作った人やモデルになった人、作り方などこれからいろいろ調べてみたいと思いました。

石戸谷 咲樹 さん (写真右)

本物の遮光器土偶を近くで見ることができて、うれしかったです。縄文人が土偶を作っている様子を想像しました。そしてお祭りの場で土偶を飾ってみんなで楽しく踊っている場面を思い浮かべました。本物を見て歴史により興味がわきました。縄文遺跡が世界遺産に登録されるように縄文時代の魅力を伝えていければと思います。